

自著と
その周辺

知らないと怖い閉塞性動脈硬化症

著者 池田宇一, 宮下裕介

PHPサイエンス・ワールド新書

174頁

2011年

定価 800円

閉塞性動脈硬化症は、動脈硬化により脚の動脈が狭くなる病気です。軽症の場合は歩行時の脚の痛み、重症化すると壊疽となり、切断を余儀なくされます。米国では心筋梗塞や脳卒中の患者数よりも多く、わが国でも60歳以上の2割が閉塞性動脈硬化症との調査結果もあります。閉塞性動脈硬化症の重要な点は、単に脚の動脈の病気というだけでなく、3～4割の患者が同じ動脈硬化性疾患である心筋梗塞や脳卒中を合併するということです。閉塞性動脈硬化症と診断がつけば、心筋梗塞や脳卒中予防のための早期対応が可能となります。

このように非常に重要な病気でありながら、心筋梗塞や脳卒中と比べ一般住民の認知度は低く、またこれまで閉塞性動脈硬化症について詳しく解説した一般向けの本も出版されていませんでした。

平成23年4月、信州大学病院に閉塞性動脈硬化症の先端診療を行う「閉塞性動脈硬化症先端治療学講座」という寄附講座を開設しました。講座開設の目的には先端医療の実践とともに、一般住民に対する啓発活動があり、そのために寄附講座の宮下裕介講師と一緒に本書を書きました。ある程度満足できる内容に仕上がったと自負していますが、一方、出版されて1年が経った現在、既に古くなった記述も目につくようになり、医療の進歩の速さに驚かされます。

巻末にも書きましたが、本書執筆中に東日本大震災が起こりました。ある日、私の外来に宮城県石巻赤十字病院から脚壊疽の患者さんが紹介されてきました。寒い避難所生活で悪化したとのことで、地元では十分な医療を受けられないため、循環器内科に2カ月間入院してもらい治療しました。被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

(信州大学医学部内科学第五講座(循環器内科) 池田 宇一)

